大阪府感染症発生動向調査週報 (速報) 2022年第20週(5月16日~5月22日)

今週のコメント

~感染性胃腸炎~ 手洗いの励行、排泄物の適切な処理が重要

定点把握感染症

「感染性胃腸炎 増加つづく」

第20週の小児科・眼科定点疾患の報告数の総計は1,201例であり、前週比15.0%増であった。定点あたり報告数の第1位は感染性胃腸炎で以下、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、咽頭結膜熱、突発性発しん、RSウイルス感染症の順で、定点あたり報告数はそれぞれ4.50、0.40、0.37、0.36、0.25である。

感染性胃腸炎は前週比16%増の886例で、南河内7.31、大阪市北部6.79、北河内5.77、三島4.65、中河内4.45であった。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は24%増の78例で、中河内1.15、北河内0.65、大阪市東部0.43である。 咽頭結膜熱は7%増の73例で、北河内0.77、大阪市北部0.71、堺市0.47であった。

RSウイルス感染症は44%増の49例で、豊能0.74、大阪市北部0.57、南河内0.44であった。

RSウイルス感染症について、今後の動向に注意が必要である。

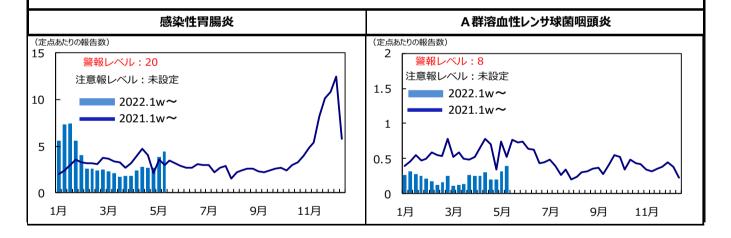


表1. 大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向(2022年第20週5月16日~5月22日)

第20週 の順位	第19週 の順位	感染症	2022年 第20週の 定点あたり 報告数	前週比増減	2021年 第20週の 定点あたり 報告数	2022年第20週の 年齢別 患者発生数 最大割合値			
1	1	感染性胃腸炎	4.50	16%增	2.98	1歳_23%			
2	4	A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.40	24%増	0.53	4歳_17%			
3	3	咽頭結膜熱	0.37	7%增	0.28	1歳_49%			
4	2	突発性発しん	0.36	0%增	0.35	1歳_59%			
5	5	RSウイルス感染症	0.25	44%増	4.13	1歳_37%			

突発性発しんについて、(1)季節変動はないこと、(2)毎週の定点あたり報告数は一定していること、(3)年次による差異もほとんどないことから、本文には詳細に記載していません。2021/22年シーズンのインフルエンザ集計は第12週で終了しました。

第20週のコメント

~梅毒~ 大阪府における梅毒累計報告数は、年間報告数が過去最高であった2018年の同時期より多くなっている。

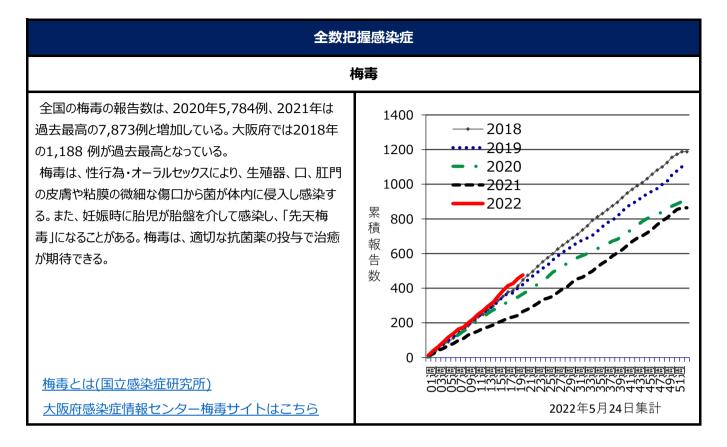


表 2. 大阪府全数報告数(2022年 第20週5月16日~5月22日)

注意:この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります (報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ> 【週報】> 全数把握疾患 をご覧ください。)

	疾患名 ()内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告数	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	報告数
3 類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	3	1	1	1						18
4 類感染症	A型肝炎	1								1	2
4 投怨未定	レジオネラ症(肺炎型)	1							1		28
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1	1								32
	後天性免疫不全症候群	2								2	29
5 類感染症	侵襲性髄膜炎菌感染症	1								1	1
	梅毒	19	1			2			2	14	476
	百日咳	1			1						12
新型インフルエンザ等感染症	新型コロナウイルス感染症 19,802 2020年1月以降累計 955,119										
結核	結核 新登録患者数:98名 (内 肺·喀痰塗抹陽性 34名)										
(2022年3月分) (府内累積報告数 231名、内 肺・喀痰塗抹陽性 88名)											

(2022年5月24日 集計分)

新型コロナウイルス感染症の報告数は、大阪府の報道発表の報告数を示しています。 詳細はリンク先の『令和2年11月1日まで』と『令和2年11月2日以降』をご覧ください。